

**株式会社アドバンテスト**  
**2012年度 第2四半期決算概要**

2012年10月25日

取締役 兼 常務執行役員 中村 弘志

# 業績概要

ADVANTEST®

(単位: 億円)

	2011年度				2012年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q		上期	
						実績	前期比 (%)	実績	前年同期比 (%)
受注高	384	276	259	343	462	253	-45.2	715	+8.3
売上高	268	377	307	458	334	392	+17.5	726	+12.6
売上原価	137	205	173	208	158	187	+18.4	345	+0.9
売上総利益	131	172	134	250	176	205	+16.8	381	+25.8
営業利益	8	-31	-30	61	8	26	+245.6	34	-
営業外収支	-4	-20	-4	-14	5	-8	-	-3	-
税引前純利益	4	-51	-34	47	13	18	+48.3	31	-
当期純利益	3	-48	-32	55	4	11	+158.9	15	-
受注残	412	400	352	236	364	225	-38.1	225	-43.6

2

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2012/10/25

## ○ 2012年度第2四半期の業績概要

- 受注高 253億円 前期比 45%減
- 売上高 392億円 前期比 18%増
- 営業利益 26億円
- 税引前純利益 18億円
- 当期純利益 11億円

なお営業外損失の主なものは、  
為替差損4億円、投資有価証券の評価損4億円

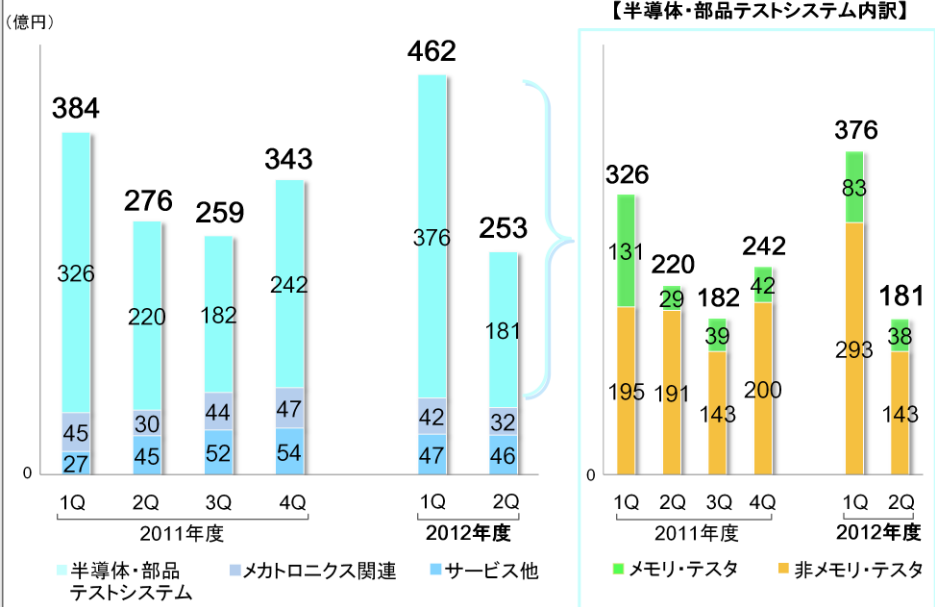
## ○ 2012年度上期の業績

- 7月に発表した上期業績予想に対しては  
受注が下限値750億円から約5%の未達、  
売上、営業利益はともに予想範囲内の結果となった
- 受注高 715億円 前年同期比 8%増加
- 売上高 726億円 前年同期比 13%増加
- 営業利益 34億円
- 税引前純利益 31億円
- 当期純利益 15億円

## ○ 受注残 6月末から139億円減少 225億円

# 受注高 事業セグメント別

ADVANTEST



3

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2012/10/25

## ○ 2012年度第2四半期の事業セグメント別受注高

- ・7月末に発表した業績予想のとおり、第2四半期は受注減少を見込んでいたが予想の下限288億円を下回る結果となった
- ・予想未達の主因は、メモリ関係の市況悪化

## ○ 半導体・部品テストシステム事業

- ・前期比52%減 181億円
- うち非メモリ・テスト 143億円
- メモリ・テスト 38億円

### (主な減少要因)

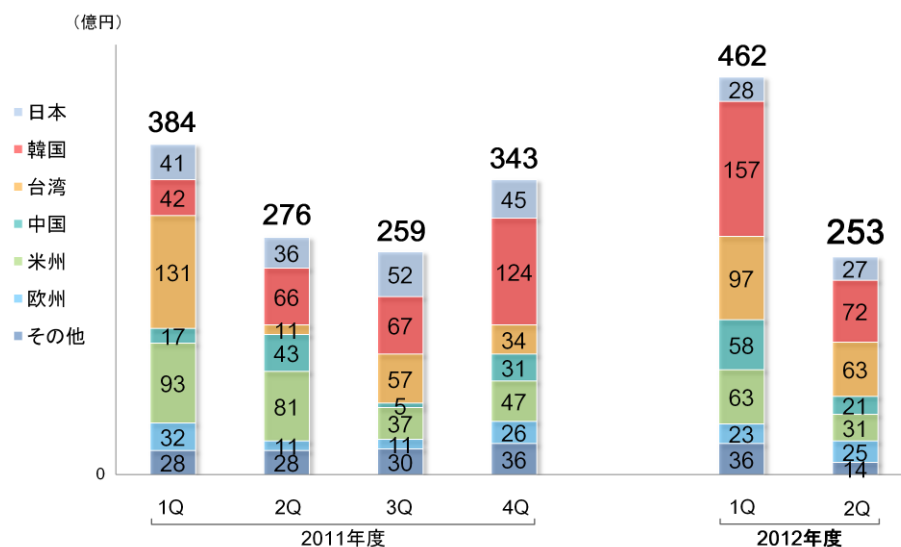
- ・非メモリ・テスト
  - ・「V93000」の大型案件を、第1四半期に前倒し受注した反動減が大
- ・メモリ・テスト
  - ・パソコン需要減退とDRAM価格低下の影響を受け、夏場以降新規需要が急減

## ○ メカトロニクス関連事業

- ・前期比23%減 32億円
- テスト新規受注の落ち込みと連動して減少

## 受注高 地域(出荷先)別

ADVANTEST®



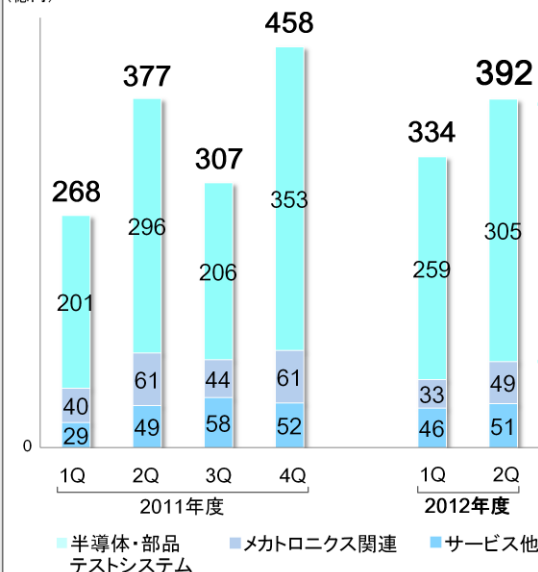
### ○ 2012年度第2四半期の地域別受注高

- 全体的に減少
- 韓国  
第1四半期に大型案件を前倒し受注したことの反動があり  
特に減少幅が拡大

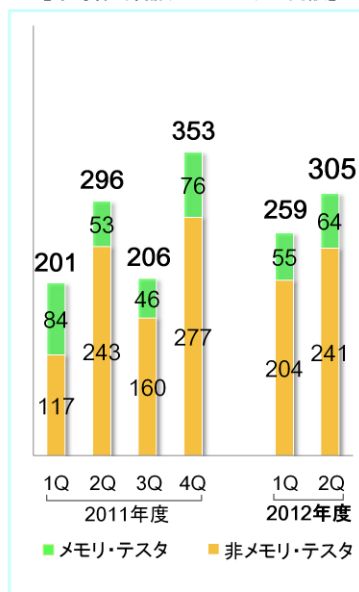
# 売上高 事業セグメント別

ADVANTEST

(億円)



【半導体・部品テストシステム内訳】



※合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれております。

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2012/10/25

## ○ 2012年度第2四半期の事業セグメント別売上高

- ・第1四半期に獲得した受注の売上計上が進み、7月末に発表した業績予想範囲内の売上を達成

## ○ 半導体・部品テストシステム事業

- ・前期比18%増 305億円

(主な増加要因)

- ・非メモリ・テスト  
通信用半導体向け「V93000」の売上増が牽引
- ・メモリ・テスト  
NANDフラッシュ向け「T5773」の売上増が中心

## ○ メカトロニクス関連事業

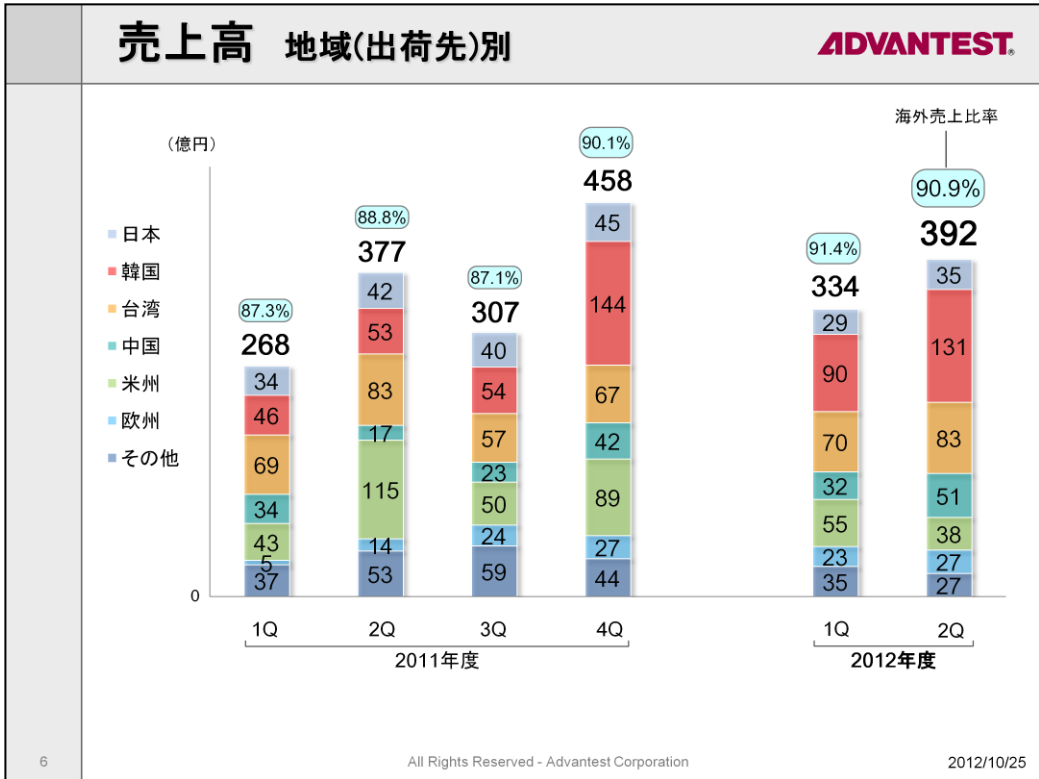
- ・前期比44%増 49億円

(主な増加要因)

- ・ロジック・ハンドラを中心に増加

## ○ サービスその他事業

- ・前期比10%増 51億円



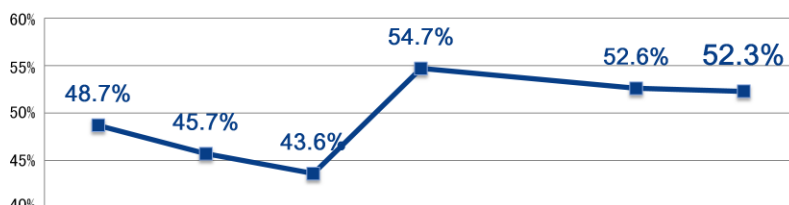
○ 2012年度第2四半期の地域別売上高

- 米州以外で増加
- 韓国  
通信用半導体向け「V93000」を中心に増加
- 中国  
NANDフラッシュ用メモリテストが増加

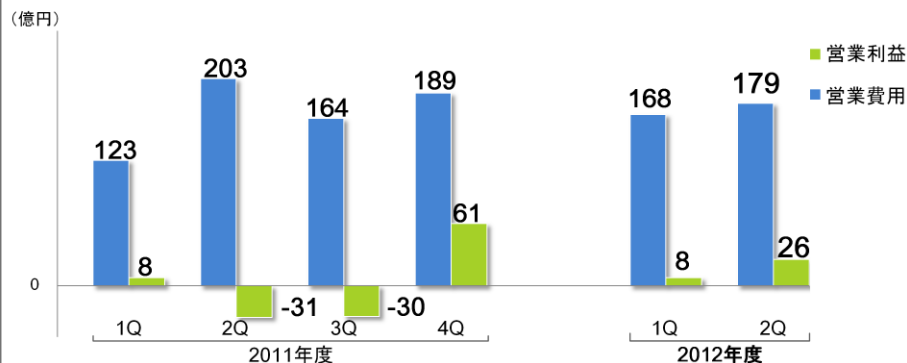
# 営業利益/売上総利益率/営業費用

ADVANTEST

## <売上総利益率>



## <営業費用・営業利益>



7

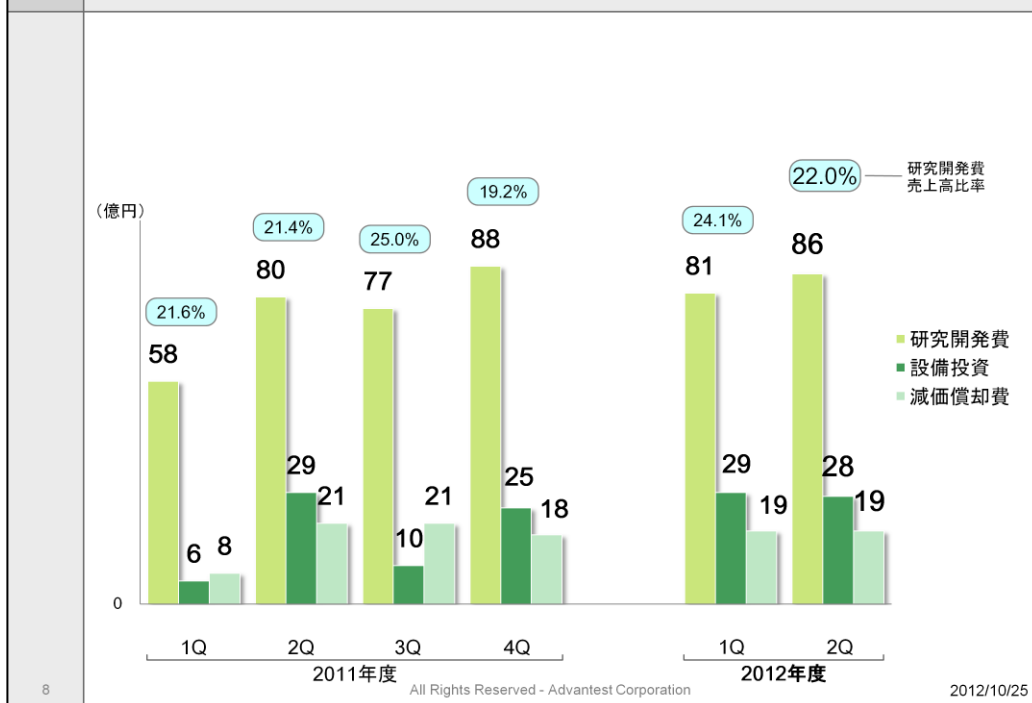
All Rights Reserved - Advantest Corporation

2012/10/25

- 2012年度第2四半期の営業利益について
- 2012年度第2四半期は
  - ・売上総利益率 52.3% ほぼ横ばい
  - ・営業費用 179億円 11億円増加  
主な増加要因は、従業員への一時金支給
  - ・営業費用の増加はあったが、それを上回る売上総利益の増加により  
営業利益 26億円 前期比19億円増加

## 研究開発費/設備投資/減価償却費

ADVANTEST



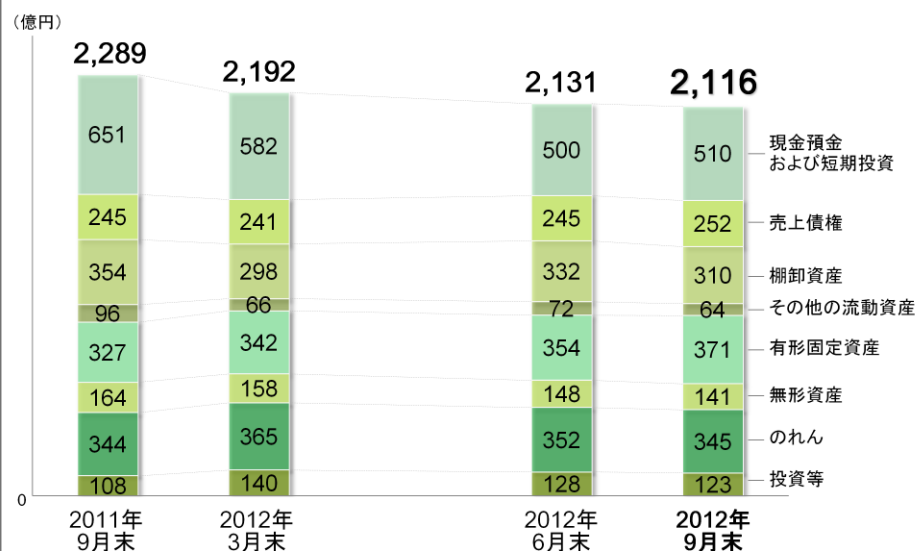
### ○ 続いて2012年度第2四半期の営業費用の内訳

- ・研究開発費 86億円  
 前期比5億円増加  
 先の一時金支出が主因
- ・設備投資 28億円  
 主な用途は、建設中の韓国新工場向けの設備投資
- ・減価償却費 前期同等の 19億円  
 なお、旧Verigy社買収にともなう無形資産償却費約4億円がこの数字には含まれる



# バランス・シート <資産の部>

ADVANTEST



9

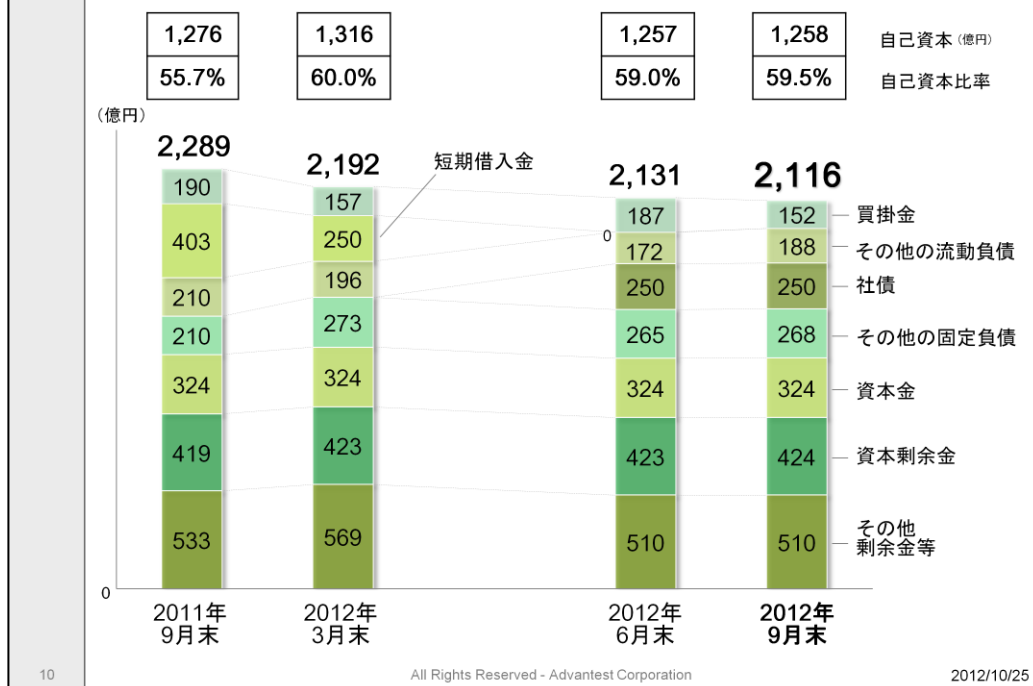
All Rights Reserved - Advantest Corporation

2012/10/25

- 2012年9月末時点のバランス・シート
- 資産の部
  - ・現金預金および短期投資  
2012年6月末比 10億円増 510億円
  - ・棚卸資産  
売上増に伴って、2012年6月末比 22億円減 310億円
  - ・有形固定資産  
韓国新工場建設に伴って、2012年6月末比 18億円増 371億円
- これらの結果、総資産は、  
2012年6月末比 15億円減 2,116億円

# バランス・シート <負債・資本の部>

ADVANTEST®



## ○ 負債・資本の部

- 買掛金 152億円  
第2四半期の受注減を受けて減少
- 自己資本 1,258億円
- 自己資本比率は  
2012年6月末から0.5ポイント増 59.5%

**2012年度第2四半期 事業アップデート**

**“売上・利益 上期目標達成”**

**受注は2Qがボトム、年明け回復に期待**

2012年10月25日

代表取締役 兼 執行役員社長 松野 晴夫

## 2012年度業績予想

ADVANTEST

(単位: 億円)	下段: 従来予想				
	2011年度 上期実績	2011年度 実績	2012年度 上期予想	2012年度 上期実績	2012年度 通期予想
受注高	660	1,262	750 ~ 800	715	1,420 ~ 1,680 (1,520~1,780)
売上高	645	1,410	720 ~ 770	726	1,400 ~ 1,600 (1,500~1,700)
営業利益	-23	8	30 ~ 60	34	60 ~ 160 (120~200)

※2012年度下期為替前提 ミドル:80円 ユーロ:100円

1株あたり 配当金額	5円	15円 (下期10円)	10円	20円 (下期10円予定)
---------------	----	----------------	-----	------------------

- ・売上、営業利益で上期予想を達成
- ・需要の減速を踏まえ、業績予想見直し
- ・受注は2Qがボトム、年明け以降の環境上向きを期待

### ○ 上期のレビュー

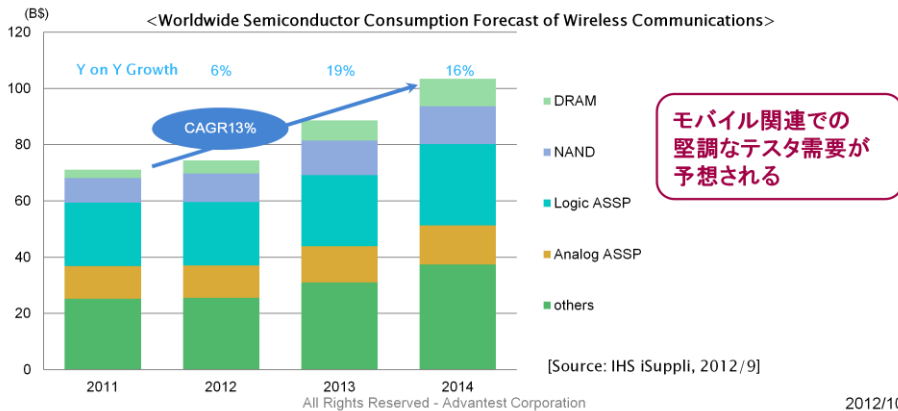
- ・第1四半期は、モバイル関連需要を背景に、「V93000」が過去最高の四半期受注高を記録したほか、メモリテストも好調
- ・第2四半期はメモリ顧客の需要が想定以上に鈍化、受注が予想より下振れ。しかし売上と利益については、上期の予想範囲内で着地
- ・受注環境の変化は、パソコン市場の軟化に起因
- ・業績予想からの下振れの一因に為替影響。  
上期受注、売上とも約20億円のインパクト。  
米ドルベース取引が増えた一方、円高の進行が期初想定を上回る

### ○ 今後の見通し

- ・マクロ経済の先行きに不透明感が濃いことで、設備投資に慎重な顧客もみられる上、パソコン市場の立ち上がり時期も不透明
- ・足元のビジネスが、事前の予想以上に減速したことを踏まえ、2012年度通期の業績予想を見直す
  - ・受注高 1,420億円~1,680億円
  - ・売上高 1,400億円~1,600億円
  - ・営業利益 60億円~ 160億円
- ・第1四半期への大きな前倒しがあったことと、想定より環境悪化したことで、第2四半期が受注水準のボトムとみる。  
足元ビジネスは活発ではないが、年末に向け徐々に環境は改善し、大手顧客が新年度を迎える第4四半期に、大きな需要の到来を期待
- ・その牽引役は、モバイル機器向け市場のさらなる活性化

## ◆モバイル関連の需要が今後も牽引役

- ・AP、LCDドライバIC、CIS向けが下期受注を牽引
- ・NAND、DRAMは年明け以降の環境回復を期待
- ・タブレット端末、ローエンド・スマートフォン市場でも成長機会獲得



13

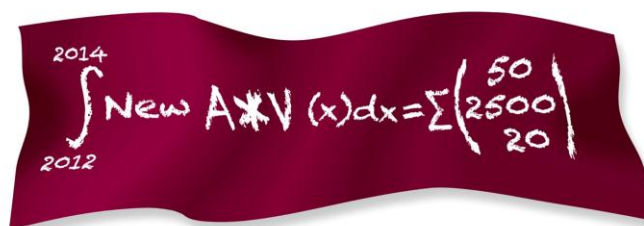
2012/10/25

### ○ 事業の見通しについて

- ・モバイル関連の需要が当社の事業を牽引する構図は当面不変。  
この下期は特に、アプリケーション・プロセッサ、LCDドライバIC、CMOSイメージセンサ向けの引合い拡大を期待
- ・メモリ・テストについても、モバイル向けの動きから、年明け以降に環境回復するものと期待
- ・下期以降のトピックスとしては、タブレット端末市場や、ローエンド・スマートフォン市場の活性化が挙げられる。  
成長する顧客とそのデバイスに対し、シェアを確保し業績を伸ばしていく
- ・当社はメモリ、アプリケーション・プロセッサ、ベースバンド・プロセッサといったモバイル機器の基幹部品のテスト市場で強固なシェアを持っている。  
来年は明るい年となるだろう

# ACT2014

Advantest Culture Transformation



ADVANTEST

2014年度での達成目標

- ・ 売上高2,500億円
- ・ 営業利益率20%以上
- ・ テスタ・ハンドラの合計シェア50%以上 (2012年7月時点: 47%)

○ 全社運動について

- ・ 今年度からの3ヶ年度を、アドバンテストとVerigyの企業融合によるイノベーションで、今後の持続的成長のための確固たる基盤構築とともに成長を果たす3年と位置づけている

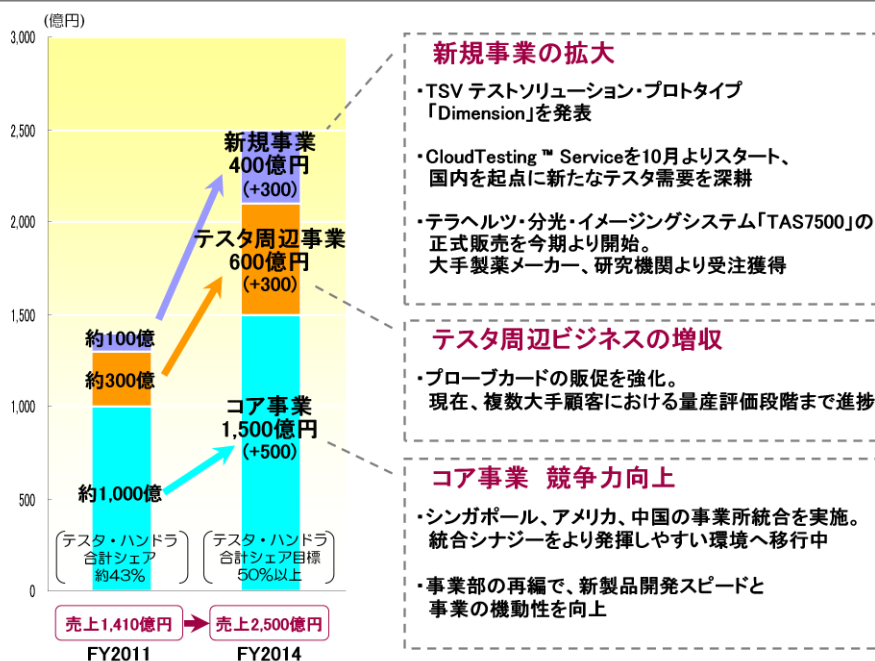
- ・ 具体的な数値目標は、  
「売上高2,500億円」  
「営業利益率20%以上」  
「テスタ・ハンドラの合計シェア50%以上」

の3点。2014年度での達成を目指している

- ・ 足元の数字としてはまだまだだが、将来に向けた成長の種まきと水やりを、着実に進めている

# 中期経営目標 上期の主な進捗

ADVANTEST



15

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2012/10/25

## ○ 中期経営目標達成に向けた主な進捗

- ・ コア事業であるテスト、ハンドラのさらなる競争力向上のため事業基盤の整備を進めてきた。  
シンガポール、アメリカ、中国の事業拠点統合のほか、事業部再編も実施
- ・ 売上高600億円を目指すテスト周辺事業において、プローブカードの拡販成功が今後のポイント。  
現在、韓国、台湾、米州の大手顧客での量産評価まで販促活動が進んでいる
- ・ 新規事業の拡大については、

  - ・ TSVデバイスのテスト・ソリューション開発
  - ・ CloudTesting Serviceを10月から開始
  - ・ テラヘルツ波関連製品「TAS7500」が、複数顧客を獲得

が主な進捗。

目立った収益を上げることはまだできていないが、近未来の市場拡大を目指し、鋭意取り組んでいる

## ご注意

- ◆ 当社は米国会計基準を採用しております。
- ◆ 将来の見通しに関する記述について  
本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。